

秋の暮に、あちらこちらでとつてきた木の実が、もうかさかさに枯れた木の葉と一緒に、私の机の上に飾ってある。ぬ

めりをもつて赤く光ったとべらの実、長い杓の先に赤い実が揺れているそよごの実、大きな黒紫色の大つけのまるい実、まつぼっくりの形をした夜叉ぶしの実、てるてる坊主の並んだように見えるくさぎの黒い実、月桂樹の名のわりにはささやかな黄色い実、中でも豪華なのはいいぎの赤い実の房である。赤や紫、黒とそれぞれに異った木の実を見ていると一年の終りの収穫の個性の違いを思われる。いずれも優劣をきめがたい。中にほんとに小さな目立たない実もあるし、また、人目をひく豪勢なものもある。

でも、よく見てみると、どれも美しく、慕わしい。

三月をすぎて、四月になると、これらの木々の花が咲きはじめめる。花の形は、木の実の形や色と、どうしてこんなに似

てもつかないのだろう。花は小さくて目立たないのに、木の実は立派なものもある。またその逆もある。

倉橋惣三の「育ての心」の四月という

題の短文、「花が咲いている。どんなに花自ら楽しいであろう。その、花自らの喜びを書びとし、……」とのべている。

小さな花も、それぞれに、花自らの喜びがあるのだろうと、あらためて気付かされれる。

四月に、幼稚園に入園していく、

子どもたちそれぞれに、新しい生活への前向きの、張り切った心がある。自分から何かやろうとしている。小さな意気込

みを、とぎしてしまるのは、第一日のみを、保育である。

今月号は、いつも問題になることで、習慣をかえることのむつかしい、入園式のことを、またとり上げることにした。

小さな花も、満開に咲かなければ、実を結ぶに至らない。花と実と、それぞれに。

(津守真)

幼児の教育 第八十二卷 第四号

四月号 ◎

定価三〇〇円

昭和五十八年三月二十五日印刷
昭和五十八年四月一日発行

東京都文京区大塚二ノ一ノ一
お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼
発行人 津 守 真

東京都文京区大塚二ノ一ノ一
お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都港区三田五ノ一二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一
発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京九一一九六四〇番

◎本誌御講読についての御注文は発売所フレーベル館にお願いいたします

*万一製品不良品がございましたら、おとりかえいたします。